

■ ご挨拶

2021年3月1日記



近畿双松会 会長 松本耕司（16期）

会員の皆様には、日頃より当会の活動に対し、格別のご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

この一年以上に及ぶ新型コロナウイルス感染禍は漸く下降局面に入ったかにも見えますが、この間、皆様、そしてご家族様に何事でもありませんでしたことを心より念じている次第です。

ご承知のように、本年度は活動を企画しては中止・縮小・延期にせざるをえないという、かつて経験したこともない、本当に残念な一年となってしまいました。（詳細：別掲）

その中で、紆余曲折が多かった、忘れられないこの一年を、せめて「年次会報」の中には記録として残したい、なんとか会報の発行だけはしたいと考えた次第でした。活動材料の少ない中、皆様にはコロナと闘われた日々を「近況報告」としてご投稿いただきたいとお願いしたところ、沢山の方にご協力賜わり、本当に有難うございました。

お蔭をもちまして、ここに会報を刊行することができ、ホッとしております。この会報が、お互いの“元気づくり”につながり、新しいスタートの踏切板になればと心から願いながらお届け申し上げます。

また、この一年で特筆すべきは、初めて事業として取り組んだ「SNS（メールマガジン・LINE@）による情報発信」が、300名強の受信者を得て50件もの情報を配信できたことです。

情報伝達が郵送だけでは十分に対応しきれない時代の流れを考え、遅まきながら取り組みましたが、初年度としては十分なスタートを切れたのではないかと考えています。

今後の目標は一にも二にも受信者を拡大することになりますので、ご登録がまだの皆様にはぜひ受信登録をお願いいたします。（詳細：別掲）

さて、いよいよ2021年度の活動を真剣に考える時期になりましたが、ご承知のようにコロナの感染禍はワクチン次第の様相を呈し、引き続き全く予断は許されない状況下にあります。

「中止より再開がむづかしい」と言われるとおり、この一年で社会も人も生活も、価値観も人生観も大きく変わったことを念頭に、皆様のご意見をいただきながら、慎重かつ前向きに検討していきたいと考えております。

現在の当会の目標は、「新しい方々、中堅・若手世代の参加の拡大」に尽きますので、活動再開後も引き続きそこに焦点を当ててまいります。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一方、松江においては、この4月、松江市内普通科受験の学区制が廃止されてから、初めての生徒が北高にも入学してまいります。この大きな変化に北高も対応が求められています。そして、今年が明治9年の開学以来145周年を迎える年でもあり、この秋にはその祝賀の行事も準備されています。

このように、北高も双松会も今年は大きな転換期を迎えますが、「不易流行」を基本に新しいスタートを力強く切って欲しいと願っております。

私たち近畿双松会も、全国の双松会員と心をつなげて、北高やふるさと松江・島根の発展に貢献したいとあらためて思いを強くし、新年度の活動が再開できましたら、一年の中止を物ともせず、再び皆様と元気にお会いできることを心待ちにしている次第でございます。

皆様におかれましては、どうぞ引き続きご自愛賜わり、お元気でお過ごしくださいますよう心からお祈り申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ、この会報にご挨拶を頂戴しました金津双松会会長様、常松松江北高校校長様には深甚なる謝意を申し上げまして、発刊のご挨拶とさせていただきます。